

第3章 監査報告

第2節 監査報告書の記載事項

○学習のポイント

- ・それぞれの意見の類型ごとに、監査報告書に何を書くのか、というのを徐々に暗記してください。
 - ・監査報告書の記載事項が標準化され記載される趣旨については、
 - ①利害関係者の理解の促進、②監査人の責任の明確化で覚えてください。
- (以下、理解の仕方のパターン(例))
- 「監査報告書の記載事項を××と定めることは、利害関係者に▲▲についての理解を促し(①)、(もって)監査人の責任をより明確にする(②)」といった役立ち(意義)がある。」

1 監査報告書総論

(1) 監査報告書の文例(短答:A、論文:A)

いわゆる「無限定適正意見」の監査報告書のひな形(標準様式)です。
他の関連する頁と互に行き来しながら構造を掴んでいきましょう。

(2) 監査報告書の記載区分(短答:A、論文:A)

基本的に、利用者にとって重要な順に記載しますが、180頁の(※2)に注意してください。
監査人の意見、意見の根拠の区分の順を除き、この順に記載することは要求事項ではありません。

①がテキスト29頁の保証機能、②が同様に情報提供機能のことを意味しています。

②については論文問題集3-2-1参照のこと

また、②の(1)から順に、243頁②、252頁、206頁、283頁で学習します。

(3) 監査報告書の記載区分の順列(短答:A、論文:A)

○180頁の図について、次の通り書き込みをしてください。

-  : 基本的な記載区分(=保証機能・保証の枠組みにおける記載【白抜き】)
 : 追加的な記載区分(=情報提供機能・保証の枠組みの外における記載【網掛け】)

また  について、次の通り書き込みをしておいてください。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| (a) 継続企業の前提に関する事項 | あれば必ず記載(243頁②) |
| (b) 監査上の主要な検討事項 | ない場合にはない旨を記載(252頁) |
| (d) 追記情報 | あれば監査人の判断で追記(206頁) |
| (c) その他の記載内容に関する事項 | ない場合にはない旨を記載(283頁) |

2 監査報告書の記載事項(短答:A、論文:A)

全体的に、①利害関係者の理解の促進、②監査人の責任の明確化、という2大ポイントで押さえます。
182頁以降は、口囲みの上段が「監査基準」の規定、下段が監基報の「監査報告書のひな形」です。
下段の「監基報」の監査報告書の記載文例が、上段の「監査基準」の規定を具体化したものになります。
両者を見比べながら、なぜ、これらの事項が監査報告書に記載されるのか暗記していきましょう。
※「監査基準」の規定はテキストの181頁に対応、「監査報告書のひな形」はテキストの176頁に対応しています。

(その他注意点)

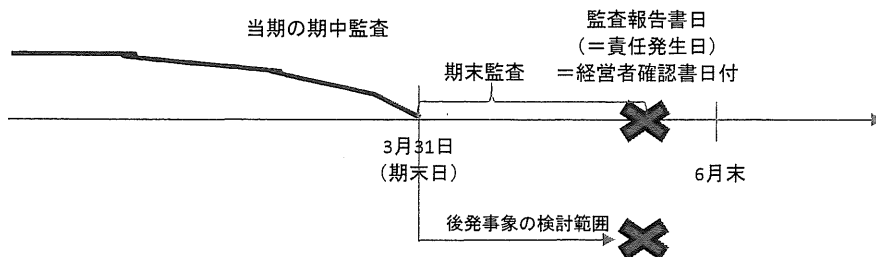
(2) 意見の根拠

①は監査業務の品質の水準を伝達するために記載が必要とされます(監査プロセスの信頼性を伝達)。
また、②は当該業務の結果得られた、監査意見の保証の水準を伝達するために記載が必要とされます(監査結果の信頼性を伝達)。この内容を立証するものが「監査調書」でした(テキスト136頁参照)。

3 監査報告書の形式要件(短答:A、論文:D(ただし、(2)のみB)

176頁の監査報告書のひな形を見ながら理解を進めてください。論文上は(2)、それ以外は短答です。

(2)については、あとで学習する後発事象(211頁、276頁)との関係で重要になります。



(4)について、日本では、監査法人名、監査事務所名、個人名のいずれも記載することとされていますが、このうち署名が求められるのは「個人名」のみです。

(参考)利害関係の記載(短答:A、論文:C)

公認会計士法上の要請事項であること、追加情報のうち「その他の事項」に相当するものであることが短答上のポイントです。

第3章 監査報告

第3節 除外事項と監査報告

○学習のポイント

- ・まず、191頁の図で除外事項の類型2つとそれぞれの特徴を押さえましょう。
- ・除外事項となるケース(192頁)を何個か覚えてください。
- ・無限定適正の場合の監査報告書(176頁)の文言とどう異なるかがポイントです。

1 除外事項総論

(1) 除外事項とは(短答:A、論文:A)

監査報告書による信頼性の保証水準や保証範囲を制限するための監査報告書上の記載をいいます。

監査人にとって、(※1)の姿勢が大切です。

監査人の本質的役割は「適正な財務諸表を資本市場に流通させる」ことにありますので、

監査範囲の制約事項については、「代替的な監査手続の実施」により十分な監査証拠を得ること、

意見に関する除外事項については、そうならないように「事前に指導」し、重要な虚偽表示については

「修正を指導」し、重要な虚偽表示のない状態とするよう指導的機能を発揮することが期待されています。

(2) 除外事項の種類(短答:A、論文:A)

191頁のゴシックの記載事項は一言一句正確に覚えてください。

監査範囲の制約は××?、意見に関する除外は○○×と覚えてください、以下がまとめです。

種類	十分かつ適切な監査証拠	意見表明のための基礎	重要な虚偽表示
監査範囲の制約	ないものがある(手続不足のため)(×)	完全ではない(×)	あるかどうか不明(?)
意見に関する除外	ある(○)	ある(○)	ある(×)

【参考】除外事項の原因事由の具体例(短答:B、論文:B)

それぞれの3タイプのうち、1つは漠然とでいいので知っておいてください。

「記載すべき注記が漏れているあるいは間違っている場合」にも虚偽表示となる点に注意しておいてください。

②は、171頁①～③のいずれを充足しておらず虚偽表示がある状況になります。

(3) 除外事項が監査報告に及ぼす影響(短答:A、論文:A)

論文問題集 3-3-1 参照のこと

表に「除外事項付意見(適正表示の枠組み)」とタイトルを付しておきましょう。

当該除外事項となりうる事象の①重要性を判断し、重要性がある場合には②(影響の)広範性を検討します。

②において、財務諸表全体に対して広範な影響があると判断した場合意見不表明or不適正意見となります。

【研究】影響の「重要性」と「広範性」(短答:B、論文:C)

①の前半は「未発見の虚偽表示」が存在する可能性があり、後半は「未修正の虚偽表示」が存在した状態です。

②の広範性について、3つの要因があること、いずれかに該当する場合広範ということを知っておいてください。

特に、②のb)やc)が広範性に該当することがある、というのが短答対策上重要です。

(参考) 除外事項付意見を表明する場合の監査報告書の様式(短答:B、論文:C)

198頁、202頁とそれぞれ対比させて徐々に内容の把握に努めてください。

【研究】限定付適正意見の根拠の記載～監査基準の令和元年度改訂～(短答:C、論文:C)

本文末尾3行目の結論とその理由を知っておいてもらえれば十分です。

重要性はあるが広範性はないと判断し限定付適正意見とした理由を記載することが明確にされました。

2 監査範囲の制約

(1) 監査範囲の制約と監査報告書上の判断(短答:A、論文:A)

監査基準の規定を必ず覚えてください。

監査基準上意見不表明は意見ではないという整理をしているので、「意見の根拠の区分」ではなく、「別に区分を設けて」という規定とされています。

(2) 監査範囲の制約の文例(短答:B、論文:C)

無限定適正意見(テキスト176頁・177頁)の場合とどこがどう異なるかが短答用のポイントです。

[参考]意見不表明の場合の記載(短答:B、論文:C)

無限定適正意見(テキスト176頁・177頁・183頁)の場合とどこがどう異なるかが短答用のポイントです。
183頁がどう198頁②に変形しているかがポイントです。

①についての考え方は次のとおりです。

a) 意見を表明しないので、ことさら「監査人の責任」を強調しない為に記載しない

b) 十分かつ適切な監査証拠を入手しておらず意見表明の基礎を得ていないため記載しない

②については次の点に注意です。

a) 本来は、というニュアンスを込めるために一部を修正して「監査人の責任」区分に記載する
つまり、監査の基準に準拠して監査を実施できていないため、実施することにある、と修正する

b) は同じ文言で「監査人の責任」区分に記載する

3 意見に関する除外

(1) 意見に関する除外と監査報告書上の判断(短答:A、論文:A)

監査基準の規定を必ず覚えてください。

(2) 意見に関する除外の文例(短答:B、論文:C)

無限定適正意見(テキスト176頁・177頁)の場合とどこがどう異なるかが短答用のポイントです。

【研究】不適正意見又は意見不表明に関する追加的な留意事項(短答:C、論文:D)

テキスト351頁を学習したあとに振り返りましょう。過去1度だけ短答式に出題されました。